平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　国語　　授業担当者　金澤・望月・鈴木（知）

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【漢字の読み書き・説明文の読解・発表力】 ・漢字の読み書きを通じて基礎学力を定着させると共に、文章の重点事項の読解から、まとめる力・話す力を付けさせる。	【読むこと・書くこと・話すこと】 ・キーワード・キイセンテンスを把握し、目的に応じた文章をつくり、わかりやすく他人に伝える力を付けさせる。

	生徒の学力の状況（今年度の課題）	授業における具体的な手立て	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎学力・語彙力の向上として、小学校の漢字の読み書きができるようにする。A ・調べ学習として図書室を利用し、意見をまとめ、発表できる力を付ける。B ・説明的文章の読解力を付ける。B	・授業の導入として、５分間漢字復習テストをおこなう。A ・まとめる力は個人作業。発表は、班及び学級全員の前でおこなう。A ・リライト教材を工夫し、キーワード、キーセンテンスなどを把握できる力を付ける。B	一年間。 １学期毎に一教材。 ２学期・３学期	
第２学年	東京都の学力調査において、 ・言語に関する内容で、漢字や語彙が都標準正答率より 5.2 ポイント低い。A ・書く力は、都標準正答率に近い。B ・読み解く力のうち、取り出す力が。都標準正答率より 5.3 ポイント低い。B	・単元ごとに漢字テスト、語句のテストを実施する。読書活動を推進する。A ・単元学習の中で、目的に応じて、必要な情報を適切に抽出する活動を、対話的な学習や協働学習の中で行う。B	・通年 ・２学期、３学期	
第３学年	・生徒の漢字や語彙の知識が不足し、特に下位層には文章を読むことにも困難がある。A ・話す力、書く力は標準に近く、また発信に対しては積極的な姿勢を示す。B ・説明的文章の読み取りが、視野の狭さと知識の不足から難しい。B	・漢字の学習教材に取り組ませテストにより定期的に定着を促す。図書室で本を活用しての発表活動を定期的に行い、本に触れる機会を増やす。A ・読む学習の進め方では対話的な学習を中心にし、文法学習や古典を読み解く学習では教え合い活動を柱とする。A	・通年 ・通年	

■主体的・対話的で深い学びに関連して １年　班での話し合い・発表活動を通して考えを広げる。 ２年　ペア学習、グループでの話し合いなど、対話活動に取り組む。 ３年　グループでの話し合い、発表など、対話活動に取り組む。	■小中一貫教育共通プログラムに関連して １年　授業のねらいを黒板に板書する。 ２年　ねらいと振り返りを毎時間行う。 ３年　ねらいと振り返りを毎時間行う。

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　社会科　　授業担当者　　天野・近江・田所・菊地

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【思考力・判断力・表現力】 学習内容を活用して、自ら課題を設定し探究する学習を通じて、自分の考えを表現していく力を付けさせる。	【技能】 自分の考えの根拠となる資料を適切に選び、説得力をもった説明ができる力を付けさせる。

	生徒の学力の状況（今年度の課題）	授業における具体的な手立て	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・関心や意欲はあるものの、家庭学習が不徹底なため、基礎的な知識・技能の定着に課題がある。 ・適切な資料選択等、技能を図る問題に意欲的に取り組むものの、自分の言葉でまとめて表現することに苦手意識を感じている。	・興味関心を引き出すことに重点を置く。 ・特に資料に触れる機会を増やし、解釈を求めるなど、質の高い効果的な発問に心がける。 ・小テストによる知識定着を図る機会を定期化。	・年間を通して実施 ・小テストに関しては、単元終了毎に	
第２学年	・関心意欲は東京都の結果同様に高いものの、思考・判断・表現では 6.3、技能では 5.6 ポイント低くなっている。 ・取り出す力が 14.3 ポイント低く、解決する力も 7.6 ポイント低い	・課題探究をベースとした授業を実施し、日頃から考える習慣を身に付けさせる。 ・授業内での資料活用を増やし、資料を読み解くことを繰り返しトレーニングしていく。	年間を通して （特に地理的分野）	
第３学年	・定期考査や復習確認テストの結果から、論理的に考えたり、問題や課題を解決したりする力が不十分である。 ・公民分野を学習していく中、現在起こっている時事的な事象を取り上げて、興味関心を引き出す工夫が必要である。	・グラフ、資料、写真や動画などから、読み取る力を身に付け、そこから論理的に自分の考えた事を表現できるように授業を行う。また、話し合い活動を行い、他者の意見を聞いたうえで自己の考えを深めることで、論理的思考の向上や発表する力(表現力)を育成する。	・資料等の読み取りは毎時間 ・話し合い活動は、単元１回を目標に	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　精選した発問と、発言のルールを徹底し、誰もが発言しようとする環境作りを行う。 ２年　ジグソー学習や教え合いの機会を増やす。誰とでも学び合える環境づくり ３年　単元に一回は話し合い活動を行う授業を行い、根拠をもって自分の意見を述べられるようにする。	１年　発言のルールを守ろうとする姿勢を継続させる。 ２年　ねらいとまとめを毎時間行う。 ３年　授業の終末に確認問題を行う。

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　数学科　　授業担当者　鳥井・山田・相澤・高橋・吉浦

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【計算力の向上】 各学年で学習する基礎的な計算や方程式などの解法を身に付け、身近な問題解決に活用できるようにする。	【対話的な学び】 図形や関数などの具体的な事象について、自らの知識・技能を活用して判断できるとともに、その処理の仕方など話し合うことができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・計算に関して基礎的な内容を習得している生徒が増えてきているものの、自分の考えを相手に伝えることについては、苦手意識も見受けられる。A　B	・さまざまな場面で、互いに自分の考え方を相手に伝えるなどして、言語力の向上をめざす点に力を入れていく。 ・東京ベーシック・ドリルを活用する。	通年 学期毎	
第２学年	・基礎・基本的な問題が定着している生徒と、不十分な生徒との二極化が激しい。A ・児童生徒の学力向上を図るための調査から、取り出す力の正答率は約 41%であり、東京都に比べて-10%の正答率であった。B	・基礎学力の定着をめざし、基本的な問題の演習を数多く実施する。 ・習熟度別授業の特性を生かして、グループ学習を活用するなどの協同学習に取り組む。 ・東京ベーシック・ドリルを活用する。	通年 通年 学期毎	
第３学年	・基礎基本の内容が習得している生徒が増えてきたものの、依然として不十分な生徒との二極化がある。A ・全国学力・学習状況調査から、活用については、東京都に比べ-0.9、全国に比べ-0.6 の正答率であった。B	・毎授業ごと、授業時に復習問題を解く。 ・習熟度別の少人数授業を実施し、個に応じた問題解決能力の向上を目指す。 ・東京ベーシック・ドリルを活用する。	通年 学期毎	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　自分の考えを相手に伝える機会を増やしていく ２年　グループでの話し合い活動を通して、考えを深める ３年　グループでの活動を活かし、問題演習も数多く取り入れる	１年　基礎学力の定着をめざし、多くの演習問題に取り組む ２年　協同学習を通して、友達と学び合い、全体で高め合う ３年　基礎学力の向上と活用できる力を身に付ける

平成 30 年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**理科**　　授業担当者　　矢野・若木・久米川

理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【自然現象についての知識・理解】 ・各学年での理科の基本用語の理解と定着。 ・定期考査や小テスト、ワークシートを活用し、基礎知識の定着。	【観察・実験の技能】 ・実験観察の基本操作の習得。 ・班で協力して実験に取り組めるようになる。 ・スケッチや結果の表など、正しい結果が書けるようになる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・理科の基本用語の理解と定着を図ることが必要である。 ・実験・観察の基礎操作の習得が不充分である。 ・小学校での学習内容が充分に定着していないので、復習的な指導を図る必要が認められる。	①理科用語を定着させる小テストを行う。 ②実験器具の操作を丁寧に指導し、習熟させる。 ③身近な事物や現象を取り上げ、実験・観察の機会を多く設定する。 ④自主的に学習できるプリントを用意する。	①単元末 ②③実験毎 ④反復学習が必要な計算、グラフの学習時	
第２学年	・理科の基本用語の理解と定着を図ることが必要である。 ・実験・観察の基礎操作の習得が不充分である。 ・１ 年次での学習内容が充分に定着していないので、復習的な指導を図る必要が認められる。 ・考察や計算などの思考力・表現力が不足している。	①基礎知識を定着させる小テストを行う。 ②実験器具の操作を丁寧に指導し、復習、定着させる。 ③身近な事物や現象を取り上げ、実験・観察の機会を多く設定する。 ④対話的な授業を取り入れ、知識・思考力の定着を図る。	①授業内（不定期） ②③授業・実験毎 ④授業内	
第３学年	・自然現象の法則や規則性に対する根本的な理解が不充分なことがある。 ・基礎的事項の定着が不充分なことがある。 ・様々な自然現象やその理由を適切な言葉と正しい文法で説明することが不充分なことがある。 ・法則や規則性を個々の自然現象にあてはめて考えることが不充分なことがある。	・様々な図や資料を利用して、諸現象の理解の徹底を図る。 ・ワークシートや小テストを活用し、基礎事項の定着を図る。 ・様々な事柄を自分の言葉で説明させる機会を多くし、その際の誤りに対する指導を行う。 ・実験の考察や、教科書の記述を通じて、応用的に考える機会をもたせる。	・２～３学期 ・２～３学期	

■主体的・対話的で深い学びに関連して １年 ２年　教師と生徒、生徒と生徒の対話活動を重視する。 ３年	■小中一貫教育共通プログラムに関連して １年　始まりと終わりの挨拶を心を一つにして行う。 ２年　ねらいの明示、授業の振り返り、話し合い活動を重視する。 ３年　ねらいの明示と導入の工夫をする。振り返りをする。

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　英語科　　授業担当者　　小田、小美濃、大賀

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【　　理解する力　　】 英文を聞いてわかる、読んでわかる力を身に付ける。そのために必要な語彙や文法など総合的な力を定着させる。	【　　表現する力　　】 場面や状況に応じたコミュニケーション能力や、自分の意見を英語で表現したりできる力を身に付ける。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	すでに多くの英語・英文に触れてきているが、定着はしていない。ALT の先生や生徒同士の対話などは臆せずできる。 すでに学力差が大きい現状ではあるが、授業には真面目に取り組もうとする生徒が多い。	・毎回の授業で全員が発話できるようにする。 ・音読に力を入れ、様々な練習方法を取り入れる。 ・教科書の暗唱を目的とした練習を、帯活動に入れる。・作文やインタビューなど、自己表現活動に取り組ませる。	・毎時間 ・毎時間 ・毎時間 ・学期に１，２回	
第２学年	・授業にまじめに取り組む生徒は多い。・単語定着練習や、ノートづくりなど、授業内で一定程度取り組むと、家庭学習につながる。・理解力や意欲に差があるので定着に開きがある。	・文法事項など、大切なポイントの説明やまとめは一斉授業で。 ・単語定着・音読・発音練習・基本的な英問英答にはペアや４人グループなど課題ごとに学習形態を変えている。	・学期ごとのスペリングコンテスト ・重要単語小テスト ・年に２回ほどのスピーチおよび自己表現	
第３学年	授業には比較的真面目に取り組むが、家庭学 習が習慣化されないので、なかなか定着に至ら ない生徒が多い。	・単語テストや基本文テストを実施し、基礎基本の定着を図る。・教科書や自主教材で自己表現活動を取り入れる。・インタビューや作文など大きな課題に取り組ませる。・単語定着・音読・発音練習・基本的な英問英答にはペアや４人グループなど課題ごとに学習形態を変えてい	・長期休み明け ・毎時間 ・学期に１，２回	

		る。		

■主体的・対話的で深い学びに関連して １～３年　ペア、４人、６人のグループ活動を通し、学び合う ２年　〃 ３年　〃	■小中一貫教育共通プログラムに関連して １～３年　授業の流れを板書し、見通しをもって授業に臨めるようにする

平成 30 年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　音楽　　授業担当者　　酒井　陽一

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【表現や鑑賞の能力を育む】 表現や鑑賞の活動を通して、より音楽的な資質を育てる。	【音楽を愛好する心情を育てる】 生涯に渡って、音楽を愛好する心情を育て、より深い音楽的感情を感受する感性を育てる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・全体的にまじめな生徒が多く、意欲的に取り組んでいる。 ・歌唱の技術は、これからの段階で喉を開いて響きのある歌唱はできていない。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・よりレベルの高い歌唱力・表現力を向上させる練習や参考となる演奏の鑑賞をする。 ・みんなで歌いあわせることによってうまれる、響きの美しさや、楽しさを感じ取らせる。	・毎時間 ・通年	
第２学年	・全体的に大人しい生徒が多いが、真面目に取り組んでいる。 ・歌唱の表現力や歌唱技術が、身に付いていない生徒がいる。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・より生徒が主体的にパート練習に取り組ませる。 ・アカペラやハーモニーの美しさを感じ取らせる。	・毎時間 ・通年	
第３学年	・全体的にまじめな生徒が多く、意欲的に取り組んでいる。 ・歌唱の技術は、レベルの高い生徒が多い。表現力のある生徒が多い。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・発声や、言葉の抑揚、発音にも注意する。 ・詞を読み、イメージを膨らませながら、表情豊かに歌うことを考えさせる。	・毎時間 ・通年	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　生徒主体のパート練習・歌詞の読み込みと深い考察をする。 ２年　生徒主体のパート練習・歌詞の読み込みと深い考察をする。 ３年　生徒主体のパート練習・歌詞の読み込みと深い考察をする。	１年　授業のねらいを黒板に提示する。 ２年　授業のねらいを黒板に提示する。 ３年　授業のねらいを黒板に提示する。

平成 30 年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　美術科　　授業担当者　　田畑　義則

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【発想や構想の能力の育成】 学習したことや参考作品などから着想を得ながら、構成や装飾、伝達や用途を考えた豊かな発想力、構想力を育てる。	【表現の能力の育成】 形や色彩などによる基礎的な表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力を育てる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎的な技能をしっかりと身に付けさせたい。 ・色彩や素材を生かした表現を工夫する力が不充分である。	・技能ワークにおける個別の指導を通して、定着を図りたい。 ・鑑賞と制作の関連性を重視し、わかりやすく、興味関心を引く視聴覚教材を使った指導の工夫を行う。 ・既習内容を生かした作品つくりを意識させる。	・ワーク実施時に取り組む。 ・新しい題材に替わるごとに。	
第２学年	・基礎的な技能をしっかりと身に付けさせたい。 ・色彩や素材を生かした表現を工夫する力が不充分である。 ・より良い作品つくりを目指した、発想や構想の力が不充分である。	・技能ワークにおける個別の指導を通して、定着を図りたい。 ・参考作品の提示する量を増やしたり、視聴覚機器の活用を進めていく。 ・伝統的な装飾や作品の良さを感じ取る中で、それらを生かし、活用した作品つくりを通して発想力・構想力を高めていく。	・ワーク実施時に取り組む。 ・新しい題材に替わるごとに。	
第３学年	・既習内容を新たな制作・表現に活かそうとする応用力や、参考作品などから得た着想などを自分なりに解釈し、あらわそうとする発想や構想の能力が不充分であると感じる。	・参考作品の提示する量を増やしたり、視聴覚機器の活用を進めていく。 ・既習内容を生かした作品つくりを意識させる。	・随時。	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　グループでの制作や学習を通して、制作やアイデアの視野を広げる。 ２年　グループでの制作や学習を通して、制作やアイデアを深める。 ３年　グループでの制作や学習を通して、制作やアイデアを深め、自分らしく表現する。	１年　黒板に授業におけるねらいを示し、取組や内容を理解させる。 ２年　授業におけるねらいを示し、終末で確認させる。 ３年　授業におけるねらいを示し、終末で確認し、学習の見通しをもたせる。

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　保健体育　　授業担当者　橋本・片白・鈴木茉・馬場園

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上】 生涯を通じて自らの健康を適切に管理することを目指し、運動を適切に行い、体力を高めるとともに、心身の調和的発達を図り、健康を保持増進する力を育てる。	【生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成】 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践する力を育てる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎体力において姿勢を支持する体幹の強さ、集団のきまりを守り行動する力に課題がある。 ・運動の課題を見つけたり課題に対して改善策を考えたりして工夫する力が不充分である。	・ウォーミングアップの中に体力を高める運動を必要に応じて取り入れ、継続的に実施する。 ・毎時間の活動の中に集団行動を意識できる活動を取り入れる。 ・課題発見やその解決方法を考え意見を出し合う時間を意図的に設ける。また、学習カードを効果的に活用する。	通年で実施	
第２学年	・体力テストでは、持久走とハンドボール投げで都の平均と大きな差がある。 ・運動の課題を見つけたり課題に対して改善策を考えたりして工夫する力が不充分である。	・学習カードや掲示物を活用し、個の役割や動きを理解させる時間を設ける。また、話し合い活動の場を設ける。 ・各単元に合わせ、体力を高める運動を継続的に取り入れる。	通年で実施	
第３学年	・運動の課題を見つけたり課題に対して改善策を考えたりして工夫する力が低い。 ・体力テストでは、いくつか平均に達しない項目も存在するが、とくに持久走が平均と比べると低くなっている。	・自他の課題を発見し、解決する場面やグループでの話し合い活動の場を設定する。 ・一人一人に目標を設定させ、それに対する適切なアドバイスを行えるようにする。	通年で実施	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　グループでの話し合い活動を通して考えを広げる ２年　グループでの話し合い活動を通して考えを深める	１年　授業のねらいを黒板に提示する ２年　授業の終末に、ねらいを達成できたかを挙手で確認する

３年　グループでの話し合い活動を通して考えを深める	３年　授業の終末に、ねらいに関する確認問題に答えさせる

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　技術・家庭科　　授業担当者　　松野　卓司

技術・家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【　実践的・体験的な学習　】 生活体験の剥落・減少により、実践力が低下している。実生活に活かす力（生きる力）を身に付けていけるようにする。	【　問題解決的な学習　】 生活の中で解決すべき技術的な課題を学習者自ら設定し、具体的な実習活動を通して解決を図ることができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・物づくりに必要な基本的な計測の力を身に付けていない。 ・設計をおこなうために必要な基礎的な計算力が身に付いていない。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・個人指導を重視する。 ・放課後補習を実施する。	・毎時間 ・通年	
第２学年	・物づくりに必要な基本的な計測の力を身に付けていない。 ・設計をおこなうために必要な基礎的な計算力が身に付いていない。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・個人指導を重視する。 ・放課後補習を実施する。	・毎時間 ・通年	
第３学年	・物づくりに必要な基本的な計測の力を身に付けていない。 ・設計をおこなうために必要な基礎的な計算力が身に付いていない。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・個人指導を重視する。 ・放課後補習を実施する。	・毎時間 ・通年	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　グループでの話し合い・実習活動を通して考えを広める。 ２年　グループでの話し合い・実習活動を通して考えを深める。 ３年　グループでの話し合い・実習活動を通して、実生活と繋げる。	１年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。 ２年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。 ３年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。

平成３０年度　東大和市立第四中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　技術・家庭科　　授業担当者　　甲田　ちあき

科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
A	B
【　実践的・体験的な学習　】 生活体験の剥落・減少により、実践力が低下している。実生活に活かす力（生きる力）を身に付けていけるようにする。	【　問題解決的な学習　】 生活の中で解決すべき技術的な課題を学習者自ら設定し、具体的な実習活動を通して解決を図ることができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・「聴く」「書く」「発言する」ことを積極的にできるようにする。 ・調理実習は、班単位で行うため、個人の基礎的な技能力を身に付けにくい。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・ノートやワークシートを活用し、まとめやすい工夫をする。 ・長期休業中に実習課題をすることにより、継続して実技の力を身に付けさせる。	・４月 ・毎時間 ・夏休み、冬休み	
第２学年	・「聴く」「書く」「発言する」ことを積極的にできるようにする。 ・作品作りは、作業進度に大きな差が出ることが予想される。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・ノートやワークシートを活用し、まとめやすい工夫をする。 ・段階標本、作業手順の提示を工夫する。放課後等の補充授業を行う。	・４月 ・毎時間 ・夏休み、冬休み課題 ・２学期	
第３学年	・「聴く」「書く」「発言する」ことを積極的にできるようにする。 ・作品作りは、作業進度に大きな差が出ることが予想される。	・１時間の授業の目標・課題を確認する。 ・ノートやワークシートを活用し、まとめやすい工夫をする。 ・段階標本、作業手順の提示を工夫する。放課後等の補充授業を行う。	・４月 ・毎時間 ・２・３学期	

■主体的・対話的で深い学びに関連して	■小中一貫教育共通プログラムに関連して
１年　グループでの話し合い・実習活動を通して考えを広める。 ２年　グループでの話し合い・実習活動を通して考えを深める。	１年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。 ２年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。

３年　グループでの話し合い・実習活動を通して、実生活と繋げる。	３年　授業のねらいを黒板に提示し、振り返りカードに記入させる。